

ちょうふ環境市民会議 第8回定期総会（概要版）

2016・5・15（日）

15:00 ~ 16:30 受付 14:30~

会場：調布市教育会館 201

議 事 次 第

1. 開会挨拶
2. 議長選出・書記任命
3. 議事進行

第1号議案	2015年度事業報告	P. 1
第2号議案	2015年度収支報告	P. 7
第3号議案	2015年度監査報告	P. 8
第4号議案	2016年度事業計画案	P. 8
第5号議案	2016年度予算案	P. 9

4. 議長・書記 解任

5. 閉会

□総会終了後、引き続き2016年度第2回運営会議を開催します。

議題「今年度の交流会について」 ご意見ご希望をお聞かせ下さい。

▽リースづくり教室 2015.11.



77▽しめ縄作り講習会 2015.12



▽交流会イベント 2016.2



[ちょうふ環境市民会議--活動報告 2015.4~2016.3]

■第 1 号議案 2015 年度活動報告

2015 年度活動方針

○調布市の自然環境をはじめとする「環境」について、活動で得られた情報や知恵を共有し、活動にたずさわる人や市民に向けて発信していきます。

設立から 7 年目をむかえ、エネルギーなど、会員の活動も広がってきています。それぞれの活動を自発的に継続しつつ、環境の視点で市民・行政・企業との活動をコーディネートするなど調布市のまちづくりに貢献し、ちょうふ環境市民会議の存在意義をアピールしていきます。

○規約にかかげた活動目的・方針にもとづき、以下の活動を楽しく行います。

- ・「東日本大震災」後、都市に住む市民の暮らし方が問われています。暮らしのエネルギー消費を根本から見直し行動する「私から始めるエコライフ」の活動に引き続き取り組みます。
- ・2015 年度に行われる「調布市環境基本計画の見直し検討委員会」に活動団体委員として、ちょうふ環境市民会議からも委員が委嘱されます。これまで数値目標の設定や重点施策としてのモデル事業の位置付けなどの提案で環境保全政策の進捗に貢献してきた実績をふまえ、新基本計画案づくりにも総力で取り組みます。
- ・会員が環境市民会議の場を使い環境保全を推進する活動に楽しく取り組みます。

1. 組織運営報告

理事会 (理事 10 人 及び 監事 1 人)

- ①定例理事会を年 12 回開催し、年間活動計画に従い事業を実施しました。受託事業については、4 月 24 日に業務受託契約を締結し、提出した事業計画担当の業務毎に担当理事を決め、年間を通して理事会の議題とし、受託管理事務局と連携して業務を実施しました。年度末に「平成 27 年度調布市環境学習交流推進事業業務、収支決算報告・監査報告、業務報告書・CDR 等文書」を各 2 部提出しました。
- ②調布市環境基本計画策定委員会に代表が委員として出席(4 回)。また策定過程で、環境保全団体として調布市からのヒアリングに 3 回取り組み、詳細にわたり案の点検を行いました。特に「市民との協働」の視点から点検・提案を行いました。
- ③課題(再掲) 2009 年 3 月の設立から 7 年が経ち、記録文書や活動道具、参考書籍などが増え、個人宅の分散保管では好ましくありません。また、今後求められるデータの収集・保管のためにも、活動拠点(事務所)が必要となっています。

運営会議

規約改正により位置づけた運営会議を、主に交流事業業務の企画運営等において 3 回実施しました。会員 ML (メーリングリスト) で議題案をお知らせし、参加をよびかけました。

事務局 （事務局長 1 / 局員 1 / 会計 1 で構成）

- ①2016 年度事業計画の年間進行管理表を作成配付し、理事会・運営会議議題案の作成や資料準備、個人会員・団体会員に対する連絡、会計業務など、事務一切を担当しました。
- ②主催会議の議題案を作成。議事録については、3 日～1 週間以内に作成し、ML に報告しました。
- ③また、会員 ML（メーリングリスト）の管理、及び連絡事項の発信を行いました。外部からの問合せに対する対応なども行い、役員 ML にて情報共有をはかり、理事会に報告しました。WEB（HP・ブログ・フェイスブック）による情報発信も担当しました。
- ④受託事業の業務管理
事務局(2 人)が各 PJ の進捗報告をもとに、行政との連絡調整・進行管理を行い、年度末に業務の収支決算報告・監査報告及び業務報告書を作成、各 2 部提出しました。

会員動向 （2015 年度末 会員数）

個人会員：60 団体会員：15 法人会員：3 / サポート会員：10

2. 事業報告

<自主事業報告>

（1）交流事業

①雑木林連絡会 （担当：安部、事務局：江刺・大村）

コーディネート事業として位置づけ、雑木林連絡会の事務局を担当しています。年 3 回（5 月 21 日、11 月 19 日、3 月 29 日）開催。おもに・保全活動に必要な用具・物資の購入・安全講習会の計画（日程・場所・内容）、実施後の振り返りとともに、市保有崖線樹林地の管理計画策定（平成 27 年度は布田崖線緑地・仙川崖線緑地が対象）・次年度の事業・予算についての要望などについて、保全団体と緑と公園課、及び団体相互の情報・意見交換を行いました。11 月 29 日には安全講習会を実施しました。出席団体：7 団体（入間・樹林の会／カニ山の会／若葉緑地の会／若葉の森 3・1 会／凸凹森の会／ちょうふ環境市民会議／緑と公園課）

みどりの国分寺崖線ウォーク 11・8（土） （事務局：ちょうふ環境市民会議 江刺・大村・鍛冶）

主催：カニ山の会／ちょうふ環境市民会議。 協力：入間・樹林の会／若葉緑地の会／若葉の森 3・1 会／凸凹森の会 後援：調布市として開催しました。コース設定：スタート仙川駅前～ゴール深大寺自然広場カニ山キャンプ場。国分寺崖線樹林を巡る約 6 キロのコース。リーダーはカニ山の会：小島氏。
▶準備：8 月 4 日、9 月 5 日（ルート踏査）、9 月 25 日、10 月 30 日の 4 回、保全団体 5 団体による実行委員会を行って準備と当日の運営に当たり、ちょうふ環境市民会議は事務局を担当。参加費：事前申込み 200 円／当日 300 円。（費用は参加費＋カニ山の会が得たセブン・イレブン記念財団助成金＋カニ

山の会が負担。)

▶当日はあいにくの雨天となり一般参加者は19人でしたが、参加者にはおおむね好評でした。完歩者に地元農家の野菜をプレゼントしました。初の試みでしたが、5つの保全団体が連携して準備・運営を行い、ちょうふ環境市民会議も事務局としての役割を果たせたことは成果でした。

▶一方、事前の広報が不十分だったこと(市報への事前掲載もれ)、チェックポイントの設定(間隔が開きすぎ)、案内スタッフの配置(樹林での説明や体験が不十分)、財政問題、調布市の関わり方、などの課題も見えてきました。

▶今後の開催については、平成28(2016)年度は、準備の年とし、29年度に調布市と市民の協働のもとで次回のウォークを実施することを視野に、29年度予算編成時期に間に合うよう、市民側の企画内容等を夏までにまとめ市に要望することが確認されています。

②イベント参加・活動PR

・調布市主催「環境フェア」に参加 6・6(土) 10時~15時、於:市役所前広場(スタッフ2+3)

①会発行の“ちょうふの自然だより”を拡大し展示 ②市民会議が携わっている“雑木林ボランティア講座”の風景を展示。③会員提供の植物苗の販売・手づくりエコグッズの販売。④体験コーナーとして丸太切りのタイムトライアルを実施。参加者は少なかったが腕に覚えのある大人や親子連れの子どもがチャレンジ。汗をかいた爽快感もあり喜んでくれた。次回も実施したい。

・多摩川自然情報館祭りに参加 11・7(土) (スタッフのべ7人)

自然素材のリース作り体験ブースを担当した。大変な盛況で予定した10名分は昼前に終わってしまった。例年葛を使ったリースやカゴ作りを開催しているので、これを目当てにやってくる方も出てきた。

リース材料集め風景▶



・地域デビュー歓迎会に参加 1・14(木) 生涯学習推進課の提案で始まった10回目の催しで対象は60歳~、運営は実行委員会。今回は65歳1000名にダイレクトメールを送付とのこと。環境政策課の紹介で「ちょうふ環境市民会議・カニ山の会」としての参加です。退職後に何か始めたいと集まった方々に「市民による雑木林の保全活動」をパワーポイントで説明しPRを行いました。

2) 活動推進事業

①企画PJ しめ縄作り講習会を企画実施 12・13(日) 参加者22人(市民会議4・その他1・田んぼの学校13・スタッフ3・講師1:田んぼの学校尾辻氏)

▽ちびしめ縄できた!



深大寺自然広場キャンプ場で開催。朝から小雨のためブルーシートを木に結んで屋根を作った。作品完成後、温かいきのこ汁・焼き芋・チャイを頂きました。

②調査研究PJ 学習会「植物調べABC」 3・5(土) 参加者15人

講師派遣支援を活用して市報で募集し、市民プラザあくろす会議室で開催。小澤講師による講義「身近な植物の調べ方」とフィールドでの採集のやり方を学習。昼食後、市民間で「自然環境のデータ収集と保管のやり方」について意見交換し、2016年度から、環境市民会議理事石川氏が中心となって植物データを中心に収集していくことになった。

(3) 広報事業

①広報PJ

ちょうふの自然だより・WEBによる活動紹介・会員MLによる情報の受信発信が中心です。MLの投稿からHPへ転載し紹介したり、発信が停滞しないようにしました。しかし「市民会議って何？初めて聞いた」といわれることも度々で、“何より必要なのは、『あれをやってる団体ね』といわれるような、ちょうふ環境市民会議独自の活動“ではないかと感じた年でした。

・ちょうふの自然だより 5回発行

カラー版129～133号を発行。発行日にはHPにもアップしている。環境政策課を通し市内公共施設に配布すると共にできるだけ会員団体にも手渡しで配布した。またイベント時には環境活動のPR用媒体として市民にも配布するよう努めた。配布は無料、郵送希望者には600円で受け付けている。

・デジタル版自然だより

発行日に、ちょうふ環境市民会議HPのトップページに画像をアップし、バックナンバーを「書庫」に収録しています。ダウンロード可能です。

・ホームページ(ブログ)

HP基本管理1名(委託)。投稿記事管理・更新は事務局長が担当。検索しやすいHPをめざしカテゴリ・固定ページテーマの整理を継続中です。担当者を募集中です。

・Facebook ちょうふ環境市民会議

イベント案内など行事予定の記事掲載後には、毎回200名余の閲覧が記録されています。ツイッターへの発信・市民活動支援センター経由の情報発信は担当者がいないため出来ていません。

・メンバーML

対象は個人会員・団体会員・サポート会員。事務局からの情報発信に力を入れ、またメンバーからの自然観察ウォッチや活動レポートを抜粋し、自然だよりやHPでも紹介しました。

(4) 提言活動等

・ワンドの再生の要望書

2015年4月1日付で、多摩川に設置されているワンド再生について、ちょうふ環境市民会議・調布水辺の楽校の連名で、調布市に再提出しました。これは現場が国土交通省管理地であることから、今後の調布市との取組に向けて、環境政策課・緑と公園課・関連市民による意見交換を行い(2014・12月26日)、その結果をふまえて4月1日付で要望書を再提出したものです。

・調布市環境基本計画策定検討委員会 (安部)

平成27年度は市環境基本計画改訂年に当たり、代表が策定検討委員会に環境市民団体委員として出席(4回)。加えて、ちょうふ環境市民会議への行政ヒアリング(3回)に対応し、保全活動を担っている市民の意見を反映させました。

・環境基本計画策定委員会の委員参加とちょうふ環境市民会議へのヒアリング

調布市は、2015年度に2016年から10年間の新たな環境行政におけるマスタープランとして新たな5つの視点、①気候変動への対応、②都市の魅力の向上、③東京オリンピック・パラリンピックへの対応、④大規模プロジェクトとの連携、⑤価値観や生活様式の多様化への対応を加え策定された。計画策定にあたって、4回の策定委員会(第1回2015年7月15日、第2回11月16日、第3回12月21日、第4回2016年3月28日)が開催され市民委員として代表の安部が委嘱され、計画案について審議し意見を述べた。委員構成：市民委員3名、教育関係1名、市内協働事業者2名、エネルギー事業者2名、学識経験者2名、行政1名 計11名。

計画策定における市民参加手続きの一環の中で、「ちょうふ環境市民会議」は3回のヒアリングを受け、意見交換を行った。

第1回(8月3日)「環境基本計画の概要と策定スケジュールについて」

第2回(9月29日)「ちょうふ環境市民会議の位置づけ、市民ワークショップについて」

第3回(12月2日)「環境基本計画(案)」

また、市民ワークショップが2015年10月に3回開催され、ちょうふ環境市民会議会員ができる限り参加し、意見提案を行った。他に、パブリックコメントへの意見も会員が提出しており、様々な形で計画策定に提言をし、計画に盛り込まれている。

策定された環境基本計画の推進体制において、市民団体であるちょうふ環境市民会議が「市民・市民団体・事業者等の連携」において中核的な位置づけがされており、計画の進行管理への積極的な関わりや、今後の環境施策推進の重要な役割を担うことが求められている。

<受託事業報告>

受託事業は(1)雑木林ボランティア講座業務、(2)環境保全団体市民の交流業務、(3)エコライフ推進業務(ゴーヤ配布)(4)人材育成推進業務(自然案内マップ作成)で、各PJに担当役員を配置し実施しました。交流業務については、運営会議を3回開催し、会員及び参加団体メンバーの協力で実施しました。

(1) 雑木林ボランティア講座運営業務P J (担当：里・尾辻)

受講者17名を対象に、里山の美しさを感じてもらえる春の開講から6回の連続講座とし、中盤では安全講習、技術の習得、生態系の学習を行いました。秋には雑木林の楽しさを味わってもらえるような火おこしや花炭作りを織り込み、最終回で市内の主な雑木林を視察し、保全活動の必要性を理解してもらうことができました。

(2) 環境団体・市民の交流業務P J (担当：岡部・事務局)

2016年2月19日(金)～21日(日)まで3日間、市民プラザあくるホール(3F)で開催し、延べ128人が参加しました。参加団体メンバーによる運営会議を行い内容について検討しました。

- ・昨年度好評だった子ども遊びのコーナーを設け、団体メンバーがスタッフとなり、つるし細工・どんぐりクラフト・ソーラーランタン作りや縄ないを行いました。場所のためか参加者は少なめでしたが、朝から最終時間まで目いっぱい楽しんでいただいていたお子さんもいました。
- ・交流カフェは、エネルギー関連と水・緑・ごみ関連の話題に分けて2回実施。活発な意見・情報交換が行われました。
- ・パネル展示部門は、例年通り各団体1枚ずつのほか、地道に個人で環境保全活動をしている方の紹介パネルも展示しました。テーブル上には、資料・チラシの他、水槽や野菜、省エネハウスの模型など、昨年よりも様々な物が展示され、親しみのあるコーナーとなりました。



(3) エコライフ推進事業・ゴーヤ苗配布業務P J (担当：江刺・池辺)

6月7日(土)に開催された「調布市環境フェア」に会場した市民を対象に、ゴーヤ苗800株を配布しました。団体会員の「身近な川を見守る会」メンバーを中心に会員の協力で実施しました。

(4) 人材育成推進・自然案内マップ作成業務P J (担当：安部・大村)

調布市の地域資源としての崖線緑地の価値と、その保全活動を担っている市民の存在を、若い人たちをはじめとする市民向けにPRするための道具として、調布の自然・雑木林を案内する、ウォーキングマップづくりに取り組みました。携帯に便利な形の「調布市・崖線樹林地ガイドマップ もりのち



ず 入間町・若葉町編」を作成。刊行物登録番号：2015-279 ※国会図書館にも置かれます。

■第3号議案 2015年度監査報告

2016年4月30日、会計担当理事の立ち会いのもと、監査を行いました。

1. 2015年度収支報告に相違はありません。
1. 領収書等証票類に間違いはありません。
1. 業務執行は適切に行われています。

2016年4月30日 監事 赤川 忠明



----- [ちょうふ環境市民会議活動計画 2016.4~2017.3] -----

■第4号議案 2016年度事業計画

設立から8年目に入りました。調布市の自然環境をはじめとする「環境」について、活動で得られた情報や知恵を共有し、活動に関心を寄せる市民に向けて発信していきます。それぞれのエコ活動を自発的に継続しつつ、環境の視点で市民・行政・企業との活動をコーディネートするなど調布市のまちづくりに貢献する活動に取り組み、ちょうふ環境市民会議の存在意義をアピールしていきます。

○規約にかかげた活動目的・方針にもとづき、以下のとおり活動します。

2016年度事業計画

(1) 交流事業

- ・環境保全団体の交流・交流イベント(受託)
- ・各種イベント参加による活動紹介
- ・コーディネート活動(雑木林連絡会事務局 その他活動支援など)

(2) 活動推進事業

- ・雑木林ボランティア講座の企画運営(受託)
- ・人材育成活用の仕組み及び(北地区)自然案内マップの検討(受託)
- ・事業企画PJ(クラフト教室・エコツアー事業の検討等)
- ・データPJ(データ収集活用の方針と仕組み検討)

(3) 広報事業

- ・自然だよりの発行(年4回～)
- ・広報の点検(HPの点検、WEB情報発信の整理)

(4) 調査研究・提言活動

- ・定例ヒアリング意見交換(1回～) / 学習会企画等 / 提言まとめ提出等